

平成26年度学術情報リテラシー教育担当者研修  
グループ討議成果物

# すべての学生に 情報リテラシーを

1班: マネジメント

発表日: 2014/11/28

会場: 国立情報学研究所

# リテラシー教育の現状 (現場の声)

- 参加者が少ない
- 担当者が少ない
- 演習科目が少ない
- ニーズの把握ができていない
- 受講者のその後に活かされているか？
- 教員・大学構成員の  
情報リテラシー教育の認知度が低い

# 社会的な環境(マクロレベル)

- 2006.3.23  
科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤  
部会・学術情報基盤作業部会  
「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」
- 2008.12.14 中央審議委員会「学士課程教育の構築  
に向けて」
- 2010.12 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究  
環境基盤部会 学術情報基盤作業部会  
「大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革す  
る大学にあって求められる大学図書館像ー」

図書館だけで  
リテラシー教育が  
できるの？

# 図書館だけでは無理！

- 教員との連携が不可欠
- 情報リテラシーは図書館利用教育を超えた範囲までをカバーしている
- 図書館の高度化ではなく大学教育の高度化

※久保山健「情報リテラシー教育の再考」学術情報リテラシー教育担当者研修配布資料 2014年11月28日

全学的な協力体制が必要

# ディプロマポリシーに盛り込む

## 情報リテラシー教育※

### 8. 社会に出た後も学び続けることができる

- ※上岡真紀子.「情報リテラシー教育と評価」学術情報リテラシー教育担当者研修配布資料. P.31 2014.11.27

そのためには…

- 図書館長に直訴
- 図書館委員会にて提案

(出席者: 図書館長、図書館委員(教員・職員)、図書館員)

# 「情報リテラシー」を 必修科目に設置

ディプロマポリシーに盛り込めた暁には…  
→学則改正を経て科目を設置



- 図書館と教員協同の体制が築ける
- 常設のサポートセンターとの協力体制を構築  
→授業以外の時間で学生をバックアップ





HAPPY END !